No. 0　　1983年7月1日

ARPA・K NEWS LETTER　地域計画・建築研究所

ニュース・レターの発刊にあたって

代表取締役社長
三　輪　泰　司

このニュース・レターは，ＡＲＰＡ・Ｋ── 地域計画・建築研究所とその人間に興味をお持ちになっている方，ひとこと文句を云ってやろうと思っていらっしゃる方のための〝受像機〟です。はじめのうちはワンウエイで雑多なニュースをうつし出しますが，そのうちリクエストもお受けし，取材にも走って現場のナマニュースも登場するでしょう。勿論，寄稿もお受けします。

ＡＲＰＡ・Ｋのことをシンク・タンク，コンサルタント，設計事務所何とでも呼んで頂いて結構ですが，とにかくこの種の仕事は人と人とのふれあい，情報と情報の交流にこそフロンティアがあると思っています。

ＡＲＰＡ・Ｋも出来て１７年にもなりますと大阪・京都の事務所（これは業務も人事も一体的に活動しています。）に 1976 年に設立した九州事務所，ことし中部圏のご期待にのってできた名古屋事務所を加えると５０名を数えるまでになりました。

まづ内部のふれあいが第１と，１９７４年に所内報「地域計画」をつくり，昨年末にはＣ＆Ｒ(Challenge ＆ Response）という所内ミニ情報誌ができました。その中には，このニュース・レターのチャンネルにのせたいオリジナルな情報もあります。こゝに発刊記念号として，№０をお届けいたします。

名古屋事務所創設を契機に始めますこのニュース・レターをユニークなネットワークに育てて頂きますようおねがいいたします。

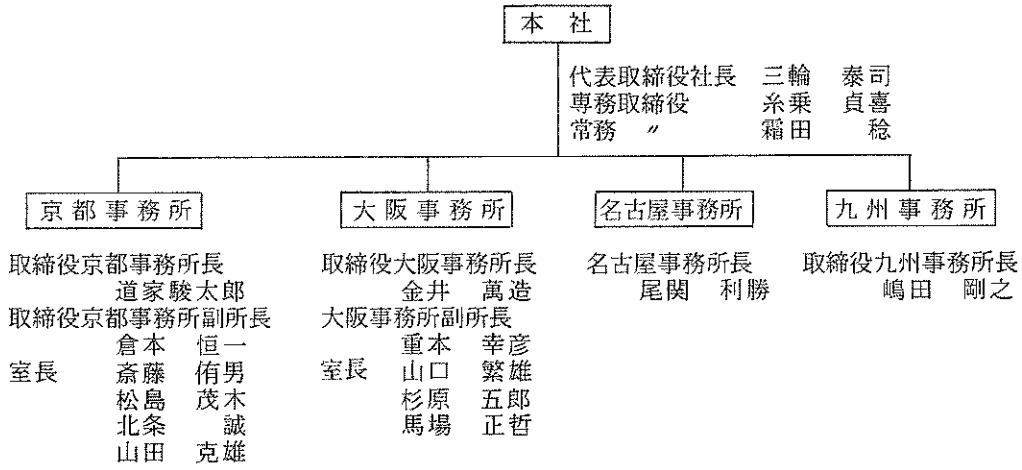
もくじ

○ ニュース・レターの発刊にあたって …… 1
○ 組織編成を変えました　よろしくお願いします …… 2
○ アルパックと京都 …… 3
○ コンサルタントの展望 …… 4
○ これから名古屋で …… 5
○ きんきょう　○ 関西文化・学術・研究都市構想について …… 6
　　○ 古寺をたずねて …… 6
○ まちかど …… 7
○ 一知半解　○ 市町村予算は１人当り 20 万円 …… 8

組織編成を変えました
よろしくお願いします

京都の地で事務所をスタートして１７年の月日が過ぎました。その間に大阪に，あるいは福岡に事務所をつくり，さらに今回名古屋事務所（当面３人）を始めることにしました。当社の支店づくりはおおむね「地元人間」主義で，名古屋には当地出身の尾関が責任者となります。

この機会に京都事務所長と大阪事務所長から霜田と糸乗がしりぞき，フリーな立場でウロウロさせていただきます。京都は道家と倉本が，大阪は金井と重本が担当します。　　主なメンバーは次の通りです。よろしくお引立て下さい。



総勢５０人で，１７年前の初心にかえってがんばってまいります。最近は「足で仕事をするアルパック」の脚力が落ちているようで反省しています。常々叱咤（シッタ）していただくようおねがいします。（いとのり　記）

アルパックと京都

取締役京都事務所長
道　家　駿太郎

京都事務所の窓からは，北は比叡山から，南は伏見に至る東山三十六峯の峯々が一望に見渡せます。

最近では四条通りや河原町通りのビルもかなり増えていますが，眼下にはまだまだ黒い瓦の町屋が広がり，清水寺や高台寺の屋根も，このビルに移った10年前と変らずに東山の山腹に，木々に囲まれており，空気の湿り具合や季節によって色々な景色を見せてくれます。

地域に根ざしたプランニング・コンサルタントを目指して創立した〈ＡＲＰＡ・Ｋ〉のＫは〈京都〉の頭文字を取ったものです。この京都は私達にとって特別な意味が込められています。一つの地方都市……東京を中央とすれば……でありながら，同時に日本の中で最も多くの文化，芸術，学術の蓄積を持ち，その中心的都市としての地位を保持しています。〈地域〉に根ざしながら，同時に日本～世界を見渡せる位置にあると考えています。

日本中，いや世界中から賞されている京都の文化や風光を大切にする心が，また地域づくりの経験がこれからの各地の地域づくりに広く普遍性を持つと考えているからです。

京都事務所のメンバーは〈地域主義〉を標榜しながらも出身地がかなり広がっています。京都に生まれ，そのままこの地から一度も居を移したことの無いメンバーはほとんど居ないと言って良いでしょう。むしろ，あるメンバーの様に，鳥取で生れ，九州で学び，東京へ移りそして京都に漂着したり，信州で生れ，東京，ヨーロッパを放浪して，そして京都に根づいたりするなど各地での経験を重ねた末に，この京都の地に根をはやしたと言えます。地域にこだわりながらも広い視野と経験をそれぞれ持っているメンバーです。

また，プランニング・コンサルタントとしての業務は将来を見通す長期的，広域的な地域づくりの研究から，現実の建設活動に直接的に関与する建築，土木の設計，監理まで広がっています。地域づくりはそれぞれの業務を通じて，生身の社会の動きを各仕事にフィードバックしながら〈現実性〉〈総合性〉そして，その地に即した〈現地性〉が結合したものと考えています。

ＡＲＰＡ・Ｋ，そして京都事務所は，この様に地域づくりに関わる分野を総合的に統一し，私達が各地で経験してきた町づくり，地域づくりの技術を京都の地に結集し，再び全国の町づくり，地域づくりへ広げていく核として，そしてこの核からすでに大阪，九州とこの度，名古屋事務所が新しく分化した様に，それぞれの故郷に帰って，その地で新しい地域づくりを進めていけるエネルギーを持った組織を目ざしています。

全国に広がり，各地域に根ざしたそれぞれの事務所の地域性と業務の広がりを結合して，全国的視野を持つコンサルタントとして歩んでいくこと，そしてこの核となることが京都事務所の役割であろうと考えております。

コンサルタントの展望

取締役大阪事務所長
金井萬造

コンサルタント技術者として13年目をむかえ今までを振り返り今後の展望の抱負を述べてみたい。

10数年という短かい年月でも大きく分けて３つの時期に分かれ今後に向けて変化しつつあるように思われる。

昭和40年代は高度成長にともなう地域開発の課題に対応した計画づくりが主体であった。

昭和40年代末から昭和50年代前半は，与えられたテーマに対して問題点を解明し課題を明らかにして答又は答を導き出す方向を明らかにしていく「問題解決型」の時期であり過渡的な性格も有している。

昭和50年代半ばからは地域発展のための事業を堀り起していく「事業推進型」の仕事のウェートが強くなってきている。

今後の方向は，この傾向がさらに強くなり問題を解決し事業を推進していく「地域発展のための新しい事業づくり型」が要請されてくるものと考える。

「コンサルタント」は本来以上で述べた各時期の要請に対応することが求められているが，歴史も浅く平均的にみて充分に対応できていないのが現状と思われる。

最近「シンクタンク」なる言葉もよく使われてきているが私自身の解釈では，コンサルタントは与えられた課題に答える能力を持つ者，シンクタンクは地域発展のために問題を総合的にとらえ，計画課題を発見し，計画・事業化まで推進していく能力を持つ者と理解している。

今後，コンサルタント的能力を基本にしつつシンクタンク的能力を養っていく努力をはかりたいと考えている。

コンサルタントの仕事を進めていく場合，コンサルのみの作業では不充分で行政，学識者を含めた研究会的なものでの総合的検討により進めていくことを基本とし，「地域発展の事業づくり」のために，関係者を含めた合意形成，計画づくり，体制づくり，事業推進の各種企画の実行なども求められてくる。

例えば，現在取込んでいるのは地域発展のためのシンポジウムの開催である。

計画作業の面でみると，事業の必要性，事業のフィージビリティ，事業効果，事業採算，総合的斉合性など多くの要請に答える作業が付加されており，今後一層の努力をしていきたいと考えている。

このようなコンサルタントへの要請に対応するためには，個人のみでなくコンサルタント組織としての計画的組織対応が今ほど必要になっている時期はないと思っている。

特に，基礎及び応用計画技術の教育研修，計画づくりを作業にとどまらず計画づくり事業として総合的に展開していくことを基本とし，所内の技術のトランスファーと組織的作業による質の向上，行政・学識者・関係者との連携・協調を重視していくことが重要であると考えている。今後のコンサルタントには多くの試練があるが努力を積重ねて意義ある仕事ができるようにしていきたいと考えている。

これから名古屋で

名古屋事務所長
尾 関 利 勝

◦名古屋へOターン

今年から私の出生地名古屋で仕事を始めることになりました。足かけ20年で東京・京都を巡り，まがりなりにも日本の三大都市圏を足ばやに体験して再び名古屋に戻る事になったOターン人間です。このまま京都に留まっていれば逆Jターンだったのですが結局振出しに戻る事になりました。

京都での足かけ14年の間，北は小樽から，南は鹿児島まで各地の仕事の機会を得たのですが，その大半は京都駅南口地区の再開発事業に昭和46年以来かかわって，基本計画・都市計画決定・事業認可・権利変換・第三セクターの設立・完了後のビル管理運営計画等をお手伝いさせて頂きました。

◦まちの変化と時間

京都駅南口地区の再開発事業（約2haの街区）は京都市南部の地域振興・まちづくりの拠点としての期待をになって明年3月にオープンする予定です。京都市のまちづくり構想（昭和44年）から15年目，事業採択（昭和47年）から12年目になります。今後この地区が京都市南部の顔となるまちとして成熟するまでに，地下鉄の延伸や道路の整備とともに，まだしばらくの年月を要するものと思われます。

たとえば名古屋の駅前や横浜駅西口の場合，最初のデパートの出店から，その後の民間によるビル建設と道路や地下鉄などの公共施設の整備を積み重ねて，ほぼ現在の姿になるまでに約30年かかっています。私の生家のある名古屋の八事周辺は，30年前は主な道路沿いの他は人家もまばらな丘陵地・景勝地でしたが，今では住宅や教育施設などにすっかりその姿を変えています。景観の計画でかかわった名古屋の久屋大通はテレビ塔の建設から約30年になりますが，周辺の土地利用が成熟したまちの姿になるのにもうしばらく時間がかかりそうです。

◦これから名古屋で

京都はあと11年で建都1200年になります。名古屋はあと6年で市制100年，12年で終戦後50年，27年で清洲越し（家康が名古屋城を築城し，同時に清洲を名古屋に移したこと）から400年を迎えます。その時私も44，50，65才になります。はたして，それまでこんな仕事をし続けられるのか不安に思うこともありますが，㈱地域問題研究所の清水さんが81才の今日まで頑張って居られるのを見ると，頭が下がるとともに心強く勇気づけられます。

京都のまちが生き続けて来たことの一つに絶えず時代の変化に対応しつつ革新し続けて来た伝統をあげることができます。

さてこれからの私が，あるいは今の仕事がどうなるのか見当もつきませんが，仕事を糧として生き続けてゆくために，少し大風呂敷を広げて，歴史の年輪の刻み込まれたまちづくり，新しい伝統の創造をめざしてチャレンジし続けたいと思っています。万一くじけそうな顔をしていれば声をかけてやって下さい。お願いします。

関西文化・学術・研究都市構想について

常務取締役
霜田　稔

５年前の私の年賀状で〝ひょっとすると，出来るかも知れない学術研究都市〟と書いて奥田先生に叱られました。

最近は，関西の２大プロジェクトのひとつとしての地位を確保し，また東京中央省庁の中でも，大いなる注目を得つつある状況となってきています。

我々の事務所が，このプロジェクトに関係してから早や10年の歳月がたっています。

昭和40年代の始めから,千里ＮＴ，泉北ＮＴ計画に続く，大規模なＮＴの候補地として注目され，昭和40年代の中期以後，単なる住宅団地ではない開発が指向され，以後，研究学園都市，国民文化都市，学術研究都市そして，これらのイメージを統合した関西文化・学術・研究都市としてネーミングが固まりつつあります。

現在は，構想段階から計画，一部建設開始に向けて，関係者のコンセンサス作りが進められています。

特に今年は，国土庁，通産省，建設省，運輸省，農林省，林野庁の６省庁の第２年目の調査が進められ，国の基本方針の確立に向けて調査が進行すると考えられますし，また同時に，京都府や地元市町村においても都市建設の基本計画が策定される様相にあり，ひとつの節目の年といえるでしょう。

我々の事務所は，京都府案の作成と，地元の田辺町，精華町，木津町の３町のまちづくり計画案の作成といった地元原案づくりをお手伝いしながら，ナショナルプロジェクトと真に調和したローカルプランの作成に向けて，努力をかたむけてゆきたいと思います。

古寺をたずねて

取締役京都事務所副所長
倉本恒一

私が京都に来てからもうだいぶ永い年月が経ちます。最初の内はよく寺を見に行きましたが，その後意識的にお寺をたずねることが無くなって来ました。最近，寺の計画の話が有って，また休みを利用しては寺を見て廻るようになりました。

この前は室生寺（前から一度行って見たいと思っていたので）をたずねて見ました。室生の里は今でも人里離れた感じで，杉の密林の山の中にひっそりとたたずんでいるところです。

京都の諸寺はぎっしりとつまった生活のにおいをさせるものであり，奈良の法隆寺，東大寺，薬師寺等の大寺は礼拝する場であり，左右対称の伽藍配置は人を威圧し，仏教伝来時の大陸のにおいをさせるものと思われます。室生寺の形は優しいが，骨太で自然の中にひそむ神秘的な力を感じさせます。

寺は今の人々にとって何なのか，過去の遺産か？遠い存在のようであり，身近に感じるのは何故か？そんなことを考えながら建物を見て廻りました。

ところで，同じ仏教でもその宗派の数が多いのにおどろきます。その違いを知るのは容易なことではありません。室生寺と竜穴神社の関係のように，神と仏を何の矛盾も感じず融合させてしまうものもあります。

自然の神秘的な力に対する畏怖が，信仰を起こさせ，宗教と結びついて来たのでしょうが，確かに室生寺の樹林の中に立って見たとき人の力をはるかに超える自然の力を感じます。樹木がまっすぐに立っていること自体にさえ驚きを感じることが有ります。

日本の建物が自然と調和し，一体化しているのは，建物を建てるという意識よりも，その素材である木の姿をそのままに置きかえて

いるためでしょう。

例えば，柱を立てる場合でも，建物の南側には山の南側で日の当る場所に育った木を使い，節が多い日面（日の当る面）を南に向けて建てるようにします。また造作材には同じ種類の木でも，山の北側で育った木を使うということにも現れています。それは山の南側に育った木はねじれ，ひねくれ，節が多いが材質が強く，山の北側で育った木は素直で材質がやわらかい為です。くせの多い木は，右ねじれと左ねじれをうまく組み合せて使うと建物を長持ちさせることが出来るということを知っていたのだと思います。

日本の木造建築が何百年以上も経て，今もなお，その姿を美しく残しているのは驚きです。それは自然の中で学び，長い年月を経て蓄積されてきた結果でしょう。

伝統ということばが，現代でも継承され，生かされるものを意味するなら，この古い寺院から伝統として受け継ぐものは無くなってしまったのでしょうか，こんなことを考えている今日このごろです。

まちかど

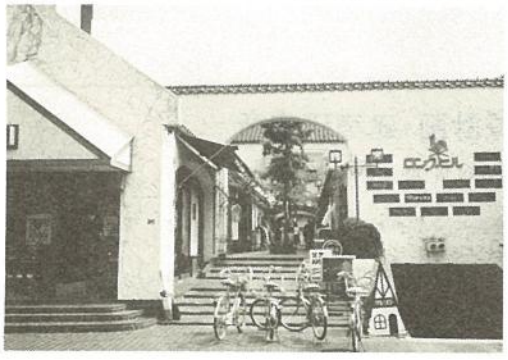
通りがかったら，なんとなく入ってみたくなるような路地の商店街がありました。商店街などで，奥まで活用し，客を導入するのはむずかしいということになっていますが，ここのふんい気は上々でした。そのふんい気をかもし出している主体は通りの真中に植わっている樹で，欲をいうなら奥の中心（少し広がっている）の樹はもう少し太いものを植えてほしかった……とも思いました。

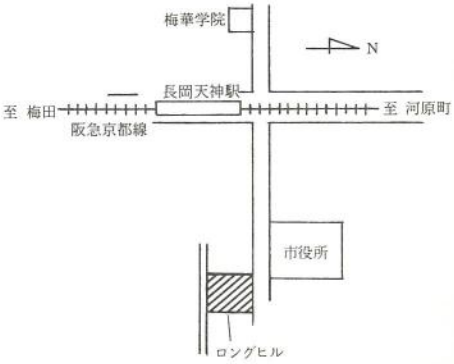
（いとのり）

※写真ご入用の方はお申し付け下さい。

少し拡大したもの

ロングヒル　　通りから奥を見る





一知半解

市町村予算は

１人当り約20万円

人口１万の町では20倍の億円……20億円，５万人だと５×20＝100億円，20万人の市では400億円とみておくと大体当っています。ちなみに市町村の職員は人口の１％ぐらいが相場のようです。

10年ぐらい前は10万円／人ぐらいだったと思いますが，今は20万円ぐらいになっています。とはいっても当然バラツキは激しく，「類似市町村のグループでみても，人口が非常に少ないグループの町村では663千円／人のものがあり，一方では165千円／人という町もある。１人当りにして４倍の差があることになる。この４倍ほどの差は何と考えたらいいのか。国土防衛費（人口が少なく，人口密度も小さいところの金額が多くなっている）と考えたらいいのか。あるいは所得の平衡策と考えたらよいのか……いろいろ考えられるところです。

（いとのり）

――知半解――

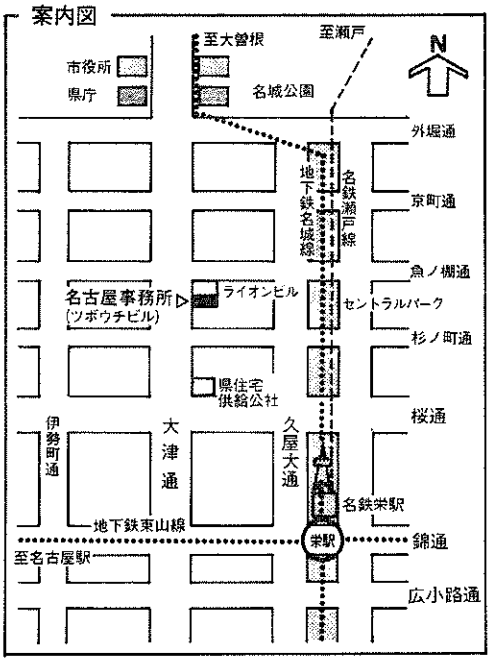
私たちが仕事の中で用いる計画原単位を，所内の引出しに入れるつもりで書いていきたいと思います。

名古屋事務所の御案内

名古屋まつり（パレード）のメイン通りでもある大津通りの桜通り交差点から北に向って杉ノ町通りを越した東側に真白いライオンビルがあります。その手前（南隣り）に１階がミノルタのショールームになったツボウチビルがあります。その６階にある小さな部屋がＡＲＰＡ・Ｋ名古屋事務所です。

近くにお越しの節はぜひお立寄り下さい。何もない事務所ですがお茶のサービス位はいたします。所員一同（３名）でお待ちしております。

案内図



ARPA・K ㈱地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本社 京都事務所 〒600 京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 TEL（０７５）２２１－５１３２(代)（大和銀行京都ビル８階）

大阪事務所 〒540 大阪市東区石町１丁目１番地 TEL（０６）９４２－５７３２(代)（天満橋千代田ビル２号館）

名古屋事務所 〒460 名古屋市中区丸の内３丁目18番30号 TEL（０５２）９６２－１２２４（ツボウチビル６階）

九州事務所 〒810 福岡市博多区中洲中島町3-3 児島ビル３階 TEL（０９２）２８１－２３４９